

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月29日
【事業年度】	第71期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）
【会社名】	マルハニチロ株式会社
【英訳名】	Maruha Nichiro Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊藤 滋
【本店の所在の場所】	東京都江東区豊洲三丁目2番20号
【電話番号】	03（6833）0826
【事務連絡者氏名】	広報IR部長 坂本 透
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区豊洲三丁目2番20号
【電話番号】	03（6833）0826
【事務連絡者氏名】	広報IR部長 坂本 透
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成27年6月25日に提出いたしました第71期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）有価証券報告書及び平成28年1月25日に提出いたしました同有価証券報告書の訂正報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

- 第一部 企業情報
 - 第2 事業の状況
 - 6 研究開発活動
 - 第5 経理の状況
 - 1 連結財務諸表等
 - (1) 連結財務諸表
注記事項
(金融商品関係)

3【訂正箇所】

訂正箇所には下線を付しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

6【研究開発活動】

(訂正前)

当社グループでは、お客様の健康に役立つ商品をご提案するための研究開発、技術蓄積を旨として、「生涯健康」をスローガンに研究活動を進めております。

特に、水産・食品事業を中心として、食品の高度（微細）加工、食品の美味しさ・栄養成分の保持・増強、微生物制御、機能性素材開発、環境・自然と調和した水産資源調達技術の五つの領域に注力いたしました。

その成果の例としましては、以下が挙げられます。

食品の見た目、香り、味や食感などの特徴を官能評価で数値化し、プロファイリングを行い、栄養成分や物性などの美味しさに関する科学的な要素を分析し比較することで、理論的に食品の特徴をコントロールする取り組みを行っております。食塩を控えるなど健康志向の強い消費者に対応できるよう、減塩しても美味しさが変わらない技術を開発し、当社商品への応用展開を進めております。

新規食品カテゴリーとして、ロングライフチルド（L L C）商品の安全性担保のための基盤となる微生物的品質保証体制構築や新規殺菌技術の開発を進め、2015年4月のL L C商品4種の販売開始に貢献いたしました。

ゼリーdeゼロ特保商品「ゼリーdeゼロSPECIAL みかん/ぶどう風味」について、難消化性デキストリンを含む特定保健用食品として表示許可を取得し、2015年2月に販売を開始いたしました。

本年4月施行の新機能性表示食品制度に対応して、健康の維持及び増進に役立つことを表示した商品の販売準備を進めております。

既存機能性素材については、収率及び純度の向上などを目指した工程改善を行い、事業採算性向上に貢献しております。

D H Aの継続的な摂取の重要性についての各種広報活動を進めております。新しいトピックといたしましては、グループホームに入所している軽度認知症の高齢者を対象に、1日1本以上のリサーチソーセージの摂取と1時間程度の有酸素運動を組み合わせを行った場合に、一部の認知機能指標の低下が抑制されること、介護する方の介護負担度が軽減される傾向が認められております。

エビの加工現場で用いる独自配合の浸漬剤を開発・実用化いたしました。素材が持つ美味しさを保ち、品質を向上させる技術として、特に食感の改良が認められております。

ブリやカンパチは、血合肉が変色しやすく改善が求められております。これまでに血合肉の変色を抑制できる養殖用飼料を開発・実用化しており、さらに高いレベルの品位を目指して改良を進めております。

水産加工現場から排出される未利用資源の有効利用に関する技術開発を行い、環境負荷低減の取り組みを進めております。

さらに水産・食品事業のリーディングカンパニーとして、関連学会での発表はもとより、関連セミナーにおける講師、地域小学校における理科授業の実施など、成果や技術力の情報発信に加え、社会に対する貢献活動に継続して取り組んでまいりました。

なお、当社グループの当連結会計年度の研究開発費は724百万円ですが、研究開発活動については、特定のセグメントに関連付けられないため、セグメント別の記載は行っておりません。

(訂正後)

当社グループでは、お客様の健康に役立つ商品をご提案するための研究開発、技術蓄積を旨として、「生涯健康」をスローガンに研究活動を進めております。

特に、水産・食品分野を中心として、食品の高度(微細)加工、食品の美味しさ・栄養成分の保持・増強、微生物制御、機能性素材開発、環境・自然と調和した水産資源調達技術の五つの領域に注力いたしました。

当連結会計年度における研究開発費の総額は724百万円であり、特定のセグメントに区分できない研究開発費の各セグメントへの配賦額を含めたセグメント別の内訳は、漁業・養殖事業32百万円、商事事業157百万円、海外事業113百万円、加工事業443百万円、物流事業6百万円、全社費用配賦差額28百万円であります。

主なセグメント別の研究の目的、主要課題、研究成果は次のとおりであります。

漁業・養殖事業

ブリやカンパチは、血合肉が変色しやすく改善が求められております。これまでに血合肉の変色を抑制できる養殖用飼料を開発・実用化しており、さらに高いレベルの品位を目指して改良を進めております。

商事事業

エビの加工現場で用いる独自配合の浸漬剤を開発・実用化いたしました。素材が持つ美味しさを保ち、品質を向上させる技術として、特に食感の改良が認められております。

海外事業

水産加工現場から排出される未利用資源の有効利用に関する技術開発を行い、環境負荷低減の取り組みを進めております。

加工事業

食品の見た目、香り、味や食感などの特徴を官能評価で数値化し、プロファイリングを行い、栄養成分や物性などの美味しさに関わる科学的な要素を分析し比較することで、理論的に食品の特徴をコントロールする取り組みを行っております。食塩を控えるなど健康志向の強い消費者に対応できるよう、減塩しても美味しさが変わらない技術を開発し、当社商品への応用展開を進めております。

新規食品カテゴリーとして、ロングライフチルド(LLC)商品の安全性担保のための基盤となる微生物的品質保証体制構築や新規殺菌技術の開発を進め、2015年4月のLLC商品4種の販売開始に貢献いたしました。

ゼリーdeゼロ特保商品「ゼリーdeゼロSPECIAL みかん/ぶどう風味」について、難消化性デキストリンを含む特定保健用食品として表示許可を取得し、2015年2月に販売を開始いたしました。

本年4月施行の新機能性表示食品制度に対応して、健康の維持及び増進に役立つことを表示した商品の販売準備を進めております。

既存機能性素材については、収率及び純度の向上などを目指した工程改善を行い、事業採算性向上に貢献しております。

DHAの継続的な摂取の重要性についての各種広報活動を進めております。新しいトピックといたしましては、グループホームに入所している軽度認知症の高齢者を対象に、1日1本以上のリサーラソーセージの摂取と1時間程度の有酸素運動を組み合わせて行った場合に、一部の認知機能指標の低下が抑制されること、介護する方の介護負担度が軽減される傾向が認められております。

さらに水産・食品分野のリーディングカンパニーとして、関連学会での発表はもとより、関連セミナーにおける講師、地域小学校における理科授業の実施など、成果や技術力の情報発信に加え、社会に対する貢献活動に継続して取り組んでまいりました。

第5【経理の状況】

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【注記事項】

(金融商品関係)

(訂正前)

<略>

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	13,971	13,971	-
(2) 受取手形及び売掛金	101,287	101,287	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	9	8	0
その他有価証券	25,360	25,360	-
資産計	140,627	140,627	0
(1) 支払手形及び買掛金	31,108	31,108	-
(2) 短期借入金(*1)	141,119	141,119	-
(3) 長期借入金(*1)	148,470	149,436	965
負債計	320,698	321,663	965
デリバティブ取引(*2)	630	630	-

<略>

(訂正後)

<略>

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	13,971	13,971	-
(2) 受取手形及び売掛金	101,287	101,287	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	9	8	0
その他有価証券	25,360	25,360	-
資産計	140,627	140,627	0
(1) 支払手形及び買掛金	31,108	31,108	-
(2) 短期借入金(*1)	141,119	141,119	-
(3) 長期借入金(*1)	148,470	149,532	1,062
負債計	320,698	321,760	1,062
デリバティブ取引(*2)	630	630	-

<略>